

韓国の私立大学の視察

私立大学の視察

本協会は、2016年に韓国大学法人協議会と包括協定を結び、韓国の私立大学の交流促進や調査協力などを行っている。2020年に包括協定の再締結を行おうとしたが、コロナ禍で果たせずいた。そこで、今後の同協議会との連携方針の確認と韓国の私立大学の運営方針としての付随事業・収益事業の現況調査のため、12月1日〜5日に韓国視察を行った。視察は、私学高等教育研究所の「日韓の私立大学の比較プロジェクト」と協同で企画した。

まず、韓国大学法人協議会 李 大淳名誉会長と今後の方針について協議し、日韓の私立大学で連携し、青少年の交流を推進することを確認した。

その後、同徳女子大学を訪問した。同大



同徳女子大学との懇談会

学は、韓国で最初に設立された女子大学の1つである。特に舞台芸術学部が有名だ。

ソウルの劇場が多くある地域に舞台芸術学部の校舎を建て、現場体験を組み込んだ教育で知られている。他の大学の芸術学部もこの地域に進出したがうまくいかず撤退しているが、最初に進出した同徳女子大学は継続して人気を保っている。学内には韓国の装束を中心とする所蔵品の展示と大学の歴史に関する博物館もあり、同大学の特色を内外に示す役割を果たしている。女子高校生が共学を好む傾向があるのは韓国も日本と同じだが、設立の理念である道徳を重視した女性教育を体現するため、今後も女子大学として運営していく予定だという。

次に、建国大学を訪問した。最近発表された韓国の大学中間評価で7位となり、勢いがある。獣医学をもとに発展し、医学、政治、経済、芸術など15学部がある。収益事業として牛乳やハムの製造・販売、証券会社等、様々な事業を行っているが、最近注目を集めているのが、高齢者施設の「The Classic500」の運営だ。富裕層向けの高齢者施設であり、同大学附属病院に隣接していることが最大の魅力だ。巨大なショッピングモールが近くにあること、入居者の家族は「The Classic500」の宿泊階を使用できること、ゴルフや水泳のほか、読書クラブなど様々なアトラクションが準備されていることなどが人気の理由であり、全室完売で現在は空き待ちの状態である。大学経営面では、地方キャンパスが足かせになっ

建国大学の高齢者施設



ているが、そこにも大学附属病院があり、地方医療の拠点となっているため動かせないなど、課題も抱えている。高齢者施設立ち上げには反対も多かったが、前理事長が

10年かけて学内及び行政関係と協議を重ね実現したとのことで、粘り強い経営姿勢が功をなしたといえる。

韓国教育省では、私立大学政策部を訪問した。韓国では構造改革の下、私立大学の収容定員と学校数を減らす施策が取られている。政策部の担当官は、私立大学が自主的に撤退を含めた今後の在り方を検討してほしいと考えており、学校法人から社会福祉法人への転換を認めることなどを現在国会で審議中とのこと。国会では地方大学をどう存続させるかも議論されており、地方大学のみをターゲットにした補助事業がスタートするという。韓国は、少子化が進行しており、ソウルへの一極集中など、同様の現象が見られる日本における私立大学政策に注目しているようで、設置基準やガバナンスについて、担当官から多くの質問が寄せられた。